事例４　**音楽を味わって聴く授業の実践～小中連携を見通した系統性をもたせた鑑賞の事例～**

○学年　　第４学年
○領域・分野・題材名　　Ｂ鑑賞「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」
○事例のポイント
①思考・判断のよりどころとなっている主な音楽を形づくっている要素は、第１次では、【音色・強弱・音の重なり】、第２・３次では、【音色・旋律・拍】とする。
②曲想と音楽の構造とのかかわりについて、聴き取ったこと、感じ取ったこととの関わりを考える鑑賞指導を展開する。
③系統性をもたせた鑑賞指導を行う。
④鑑賞指導におけるＩＣＴの活用例を例示する。
⑤主体的に学習に取り組む態度と、知識、思考・判断・表現の観点との関わりを例示する。

１　題材名　　いろいろな音のひびきを感じ取ろう（８時間扱い）

２　題材について

⑴　児童の実態

児童は音楽を表現することや音楽を鑑賞することなどの様々な活動に興味をもっている。そして、それらに必要な知識や技能を得たいと考えており、授業に対して主体的に取り組もうとしている。音や音楽から聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動は年間を通して行っているが、聴き取ったことを、音楽を特徴づけている要素と結び付けられない児童、どのように言葉で表したらよいのかわからない児童、自分なりの言葉で楽曲のよさを表すことを困難に感じる児童もおり、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。これまで楽器の音色については、主に１、２年生までに鍵盤ハーモニカと打楽器（カスタネット、トライアングル、小太鼓など）、３年生でリコーダーとお囃子の楽器と金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバ）、４年生で打楽器（ギロ、マラカス、クラベス）を表現あるいは鑑賞で学習している。今後は日本の楽器、弦楽器、オーケストラの学習を控えている。特にオーケストラの楽器の名称・種類・音色などの特徴は、中学校の学習においても深く関わっており、しっかりおさえておきたい。

⑵　題材について

本題材では、それぞれの楽器のもつ固有の音色を感じ取りながら、表現を工夫したり、聴いたりする学習をする。音楽づくりでは打楽器の材質、器楽分野では木琴や鉄琴に用いるマレットの材質、鑑賞では木管楽器の音の出る仕組みや材質による違いや共通点に着目させ、音そのものの魅力を十分に感じ取らせるようにする。その際に音色にじっくりと耳を傾けられる環境づくりをする。音楽を聴いて感じ取ったことなどを、絵や図で表したり、体の動きに置き換えて表したりするなどして、曲の特徴について理解したり、曲の演奏のよさなどについて考えたりすることができるようにしていきたい。音楽の聴き方がわかると、曲のよさを味わって聴くことができる。よさを味わうことは、音楽に限らず多様な価値観を認められる児童の育成につながる。また、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の相互関連を図り、表現と鑑賞の学習で育む思考力、判断力、表現力等を育成し、学習を充実させたい。

⑶　学習指導要領との関連について

本題材では、音色に着目し、学習指導要領のＡ表現⑵器楽ア、イ、ウ、⑶音楽づくりア、イ、ウ、Ｂ鑑賞ア、イを指導するものとする。

３　題材の目標

⑴　楽器の音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き、楽器の組合せや音の重なり方を生かして音楽をつくる技能や、音色や各パートの音のバランスに気を付けて演奏する技能を身に付ける。<知識及び技能>

⑵　楽器の音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら味わって聴いたり、楽器の音色を生かした演奏の仕方や、音の重なり方などを用いた音楽のつくり方について、

思いや意図をもったりする。<思考力、判断力、表現力等>

⑶　楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったり、音色や音の重なりを生かして互いの音を聴き合って演奏したり、音色や旋律の特徴による曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたりする学習に進んで取り組む。<学びに向かう力、人間性等>

４　教材について

⑴打楽器の音楽（音楽づくり）
⑵「茶色の小びん」　芙龍明子　日本語詞／ジョセフ　ウィナー　作曲／浦田健次郎　編曲
⑶「アルルの女」第２組曲から「メヌエット」　ビゼー　作曲／ギロー　編曲
⑷「クラリネット　ポルカ」　ポーランド民謡

５　学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

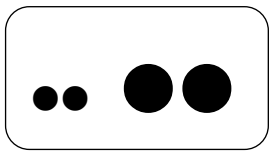
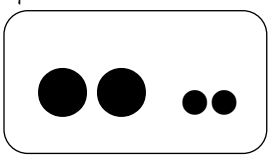
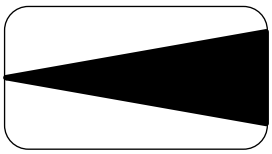
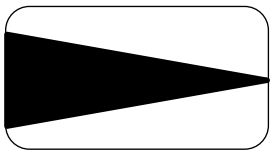
指導事項	器楽ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと 器楽イ（ア）　曲想と音楽の構造との関わりに気付くこと 器楽イ（イ）　楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに気付くこと 器楽ウ（ア）　範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けること 器楽ウ（イ）　音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けること 器楽ウ（ウ）　互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること 音楽づくりア（ア）　即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること 音楽づくりア（イ）　音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと 音楽づくりイ（ア）　いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴に気付くこと 音楽づくりイ（イ）　音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴に気付くこと 音楽づくりウ（ア）　設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること 音楽づくりウ（イ）　音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けること 鑑賞ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと 鑑賞イ　曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと	
〔共通事項〕	ア	音色・旋律・強弱・音の重なり・拍
具体的な学習活動	・打楽器の音の特徴を生かして音楽をつくる。 ・音色を味わいながら合奏する。 ・木管楽器の音色に親しむ。	

６　題材の評価規準　　※丸数字･･･全員の学習状況を記録に残す場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①技打楽器の音色や組合せの特徴、構成の仕方が生み出す面白さに気付き、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能や、音楽の縦と横との関係など音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（音楽づくり） ②知曲想と音楽の構造との関わりに気付いている。（器楽） ③技音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する技能や、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器楽） ④知木管楽器の音色や響きと曲想との関わりに気付いている。（鑑賞）	思①音色、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、いろいろな音の組合せを即興的に表現し、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（音楽づくり） 思②楽器の音色の特徴や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器楽） 思③楽器の音色や旋律の特徴と曲想との関わりについて気付いたことを生かして、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞）	態①打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴を生かし、即興的に音で表現する学習に進んで取り組もうとしている。（音楽づくり） 態②楽器の音色を生かして演奏したり、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いたりして、音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。（器楽） 態③木管楽器の音色や響きに興味・関心をもち、曲や演奏のよさなどを味わって聴く学習に進んで取り組もうとする。（鑑賞）
１時			①観察・記述・聴取
２時	①知観察・発言・聴取		
３時		①観察・発言・記述	
４時	②知観察・発言・聴取		
５時		②観察・発言・聴取	
６時	③技聴取・観察		②観察・記述・聴取
７時	④知観察・発言・記述		
８時		③観察・発言・記述	③観察・記述

7　指導と評価の計画（全８時間）

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
（P132 評価資料を参照）

時	◆ねらい ○学習内容　・学習活動 **T:具体的な発問**	○指導上の留意点	事例のポイント 留意事項◎
1	１次◆音の特徴を生かして音楽をつくる。		
	○音の様子を表したカードを使い、音の出し方を工夫する。 ・ア、イ、ウ、エの４種類の図形カードを見て、楽器でどのように音を出して表現すればよいか、試す。	ア  弱い音　強い音 イ  強い音　弱い音 ウ  だんだん強く エ  だんだん弱く	ポイント①② ◎音楽を形づくっている要素【音色・強弱】を視覚化することにより、聴き取ったことと感じ取ったこととの関りを捉えやすくする。
	・工夫した表現を紹介し合う。 ・カードを２枚以上使って即興的に音で表現する。	○小物打楽器などを配り、素材によって異なる種類の音がすることに気付くようにする。 ○友達の発表を聴き、自分の楽器ならどのように音を出すのかを考えられるようにする。	ポイント⑤ ◎「主体的に学習に取り組む態度」と、「知識」、「思考、判断、表現」の観点との関わりを見取る。
2	○打楽器の音の組合せ、音の重ね方、反復などを生かして、３人１組で音楽をつくる。 ・楽器の特徴を確認する。	○楽器の特徴を、実際に音を鳴らしながら確認する。 ・トライアングルは、長い音も短い音も出せる。 ・ウッドブロックは高さの違う音が出せる。 ・タンブリンは、皮を打つ、タンブリンを振るなどの奏法を変えて違う音が出せる。	
	・３人のグループになり、楽器の音の組合せを考えて、使う楽器を決める。 ・教科書に出ている例を児童が演奏し、音楽づくりの見通しをもつ。	○同じ種類の楽器、または異なる種類の楽器から、グループの思いや意図に合った組合せを考えて選ぶようにする。 ○１人ずつ演奏すると、それぞれの楽器の音がよく聴こえることや、音の重ね方によって一つの楽器を目立たせられることを確認する。	ポイント① ◎音楽を形づくっている要素【音色・強弱・音の重なり】に注目させて、組合せを試行錯誤させる。

	・音楽をつくるルールを確認する。 ①「始め」と「終わり」は３人が同じカードを１枚選び、一緒に演奏する。 ②「中」の部分はカードを自由に組み合わせてつくる。 ③ア～エの４種類のカードを全て使う。 ・ア～エのカードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、グループで「中」の部分の音楽をつくる。	○様々な重ね方ができるように、カードを多く用意してグループに配布する。 ○並べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組合せを工夫できるようにする。 P99 指導計画作成の留意事項⑵ ○試しながら互いの楽器に対して意見を言い合い、よりよい表現を求められるようにする。	
3	○「始め」「中」「終わり」の音楽の構成を意識して、まとまりのある音楽をつくる。 ・「中」の部分を確認し、始め方や終わり方を工夫して、グループの音楽をつくる。 ・グループごとにつくった音楽を発表し合い、互いの表現のよさを認め合う。	○中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのように始め、どのように終わりたいのかを話し合い、それに合うカードを選択できるようにする。 P99 指導計画作成の留意事項⑵	ポイント① 音楽を形づくっている要素【音色・強弱・音の重なり】
4	第２次◆豊かな響きを味わいながら演奏する。		
	○拍にのって主な旋律を演奏する。 ・指導用ＣＤを聴いて、曲の感じをつかみ、主な旋律を階名唱する。 ・楽譜を見て、曲の構成を確認する。 ・主な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏し、旋律の特徴に合う息の使い方を工夫する。 ・副次的な旋律をリコーダーで演奏し、主な旋律と合わせる。	○楽譜を見ながら範奏を聴き、合奏の学習への見通しをもてるようにする。 ○Ａ＋Ｂの形式で、ＡもＢも４小節目が各段で違うことを確認する。 ○どのような曲の感じか、音色や旋律をもとに問い掛け、それにふさわしい演奏の仕方を工夫するようにする。	ポイント① 音楽を形づくっている要素 【音の重なり】 それぞれの旋律の音の高さを確かめながら、音の重なりを階名唱や楽譜から捉えさせる。

5	○パートの特徴を知り、音色に気を付けて合奏する。 (シャープ) について知る。 ・主な旋律、副次的な旋律、和音、低音の各パートを確認する。 ・グループに分かれ、４つのパートの担当を決めてそれぞれの旋律を演奏する。 ・拍にのり、音色に気を付けて合奏する。	○教科書等の鍵盤図で位置を確認する。 ○リズムを確認したり、階名唱をしたりして楽譜に慣れるようにする。 ○時間があれば２段目だけいろいろな楽器を体験させるとよい。 ○楽器の数やバランスを考えてグループを組み、主な旋律がほかのパートよりも多くなるように指導者が人数を設定する。 ○マレットの持ち方や打つ位置、タンギングや音の高さなどを確認する。	ポイント① 音楽を形づくっている要素【音の重なり】 ◎それぞれのパートを聴き、パートの役割を感じ取らせ、演奏に生かすようにさせる。
6	○各パートの音のバランスや響きに気を付けて演奏する。 ・パートごとに演奏し、自分が担当する楽器の旋律と役割を確認する。 ・鉄琴のパート、木琴のパートの違いによる音色の違いを確認する。 ・グループごとに合奏をする。 ・互いの表現を聴き合い、工夫のよい点について意見交換する。	P99 指導計画作成の留意事項(2) ○数種類のマレットで演奏し、その音色の違いを学級全体で確認する。 ○グループごとにどのマレットがよいか、低音の音量はどうか、聴き比べながら決めるようにする。 ○聴いている人からは、主な旋律が聴こえるかを確認し、聴こえにくい場合はどうしたらよいのかを考えられるようにする。	ポイント① 音楽を形づくっている要素【音色・音の重なり】 ◎マレットの材質によって、音色が変わることを音を聴きながら比較して確かめさせる。 ◎音の重なりに注目させて、試行錯誤させる。 ポイント⑤ ◎「主体的に学習に取り組む態度」と、「知識」、「思考、判断、表現」の観点との関わりを見取る。
7	３次◆フルートとクラリネットのひびきに親しむ。		
	○木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・「いろいろな木管楽器（フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット）」を聴き、音の出る仕組みや音色の違いに気付く。 **T:今日は楽器について学習します。この曲は何の楽器で演奏しているでし**	○ＣＤを入れ替える手間などを省くため、タブレット等にデータを取り込んでおき、再生順に並べ替えておくとスムーズに進めることができる。 ○教科書等の写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、鑑賞用ＣＤを聴かせたりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。	ポイント③ 系統性をもたせた鑑賞指導（７・８時は３年生の「金管楽器」、５年生の「弦楽器」などの学習において、楽器を置き換えて活用することができる。）

	ょうか。 ・フルートとクラリネットの音色を言葉で表す。 **T:フルートとクラリネットの音はどんな音でしょうか。言葉で表してみましょう。（ワークシート1）** ・木管楽器で演奏されている曲を聴き、楽器名と理由を考える。	○同じ曲のフルートとクラリネットの音楽を聴かせてることで、比較しやすいようにする。 ○鑑賞用ＣＤの楽曲もよいが、同一曲の方が児童は音色を比較しやすいので、そういった楽曲を探して聴かせることも考えられる。 ○言葉で表すことが困難な児童には、ワークシートに提示された言葉から選ばせることも考えられる。 ○同じ曲の木管楽器で演奏されている音楽をランダムに聴かせる。 ○グループごとに取り組ませてもよい。	ポイント④ 鑑賞指導におけるＩＣＴの活用例 ◎再生順にプレイリストをつくる。 ポイント① 音楽を形づくっている要素【音色】 ◎フルートとクラリネットの音色を比較して聴く。 ポイント⑤ 主体的に学習に取り組む態度と、知識の観点との関わりを見取る。
8	○フルートとクラリネットの音の特徴や旋律の美しさやよさを味わいながら聴く。 ・「ア」「イ」の１フレーズを、楽器演奏のまねをしながら聴く。 **T:（発問①）「ア」「イ」のどちらかはフルート、どちらかはクラリネットの曲です。楽器を演奏するまねをして、どちらか考えながら聴きましょう。** ア：メヌエット イ：クラリネット　ポルカ ・「ア」「イ」の一部分を、曲に合った指揮をしながら聴く。 **T:（発問②）３拍子の曲はどちらでしょう。指揮をして、どちらか考えながら聴きましょう。** ・「ア」「イ」の一部分を、主な旋律の音の高さに合わせて指や手を動かしながら聴く。 **T:（発問③）「ア」「イ」の主な旋律を、図形楽譜をなぞりながら聴きましょう。**	○教科書は開かせない。 ○演奏するまねをしながら聴かせる。 ○どちらの曲がどちらの楽器（フルートかクラリネット）なのかを考えながらまねをさせる。 ○「ア」がフルート、「イ」がクラリネットであることを確認し、板書する。 ○曲に合った指揮の仕方になるよう、手や腕の動きなどに気を付けて指揮をさせる。拍子を通して曲の感じをつかませる。 ○「ア」が３拍子、「イ」が２拍子であることを確認し、板書する。 ○「ア」と「イ」では、手や腕の動きが違う指揮になることを確認し、そのような違いがある理由を発表させ、板書する。 ○ワークシートにある図形楽譜をなぞりながら聴かせたり、身体の前に手を持ってきて、音の高さに合わせて手を上げ下げするなどして聴かせたりすることで、旋律（音の高さやつながり）の特徴をつかませる。 ○「ア」は音の高さが高く、長い音が多いこ	ポイント① 音楽を形づくっている要素【音色】 ポイント① 音楽を形づくっている要素 【拍子・旋律】 ポイント② 曲想と音楽の構造との関わりについて、聴き取ったこと、感じ取ったこととの関わりを考える鑑賞指導。 ◎比較して聴く。

	どんな違いがありますか。手を上げ下げして聴きましょう。どんな違いがありますか。	と、「イ」は音の高さが低く、短い音が多いことを確認し、板書する。	◎音楽に合わせて楽器のまねをする。 ◎音楽に合わせて指揮をする。 ◎図形楽譜を指でなぞる。 ◎音の高さに合わせて手を上げ下げするなどの身体を動かす活動をする。 ◎旋律を口ずさむ。
	・「ア」「イ」の一部分を聴きながら、主な旋律を口ずさむ。 **T:（発問④）「ア」「イ」を聴きながら、主な旋律を「ル」で口ずさみましょう。**	○主な旋律を口ずさむことを通して曲の感じをつかませる。 ○「ア」と「イ」では唇や舌の動かし方などに違いがあることを確認し、そのよう違いがある理由を発表させ、板書する。 ○発問①～④の活動は、適宜グループで行うことも考えられる。 ○発問①～④の活動は、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるように板書する。 ○発問①～④の活動は、児童が十分に聴き取ったり感じ取ったりすることができるよう、適宜繰り返したり、確かめたりする。 ○可能なら授業で学習したことに関連する動画を見せることも考えられる。	
	・曲名と作曲者を知る。 ・「メヌエット」「クラリネットポルカ」を最後まで聴く。 ・どちらか１曲を選んで、よさとその理由を書く。 ・学習を振り返る。	○書き方の例を示す。 ○授業で学習したことを通した自分なりの考えが入るようにする。	ポイント⑤ 主体的に学習に取り組む態度と、知識、思考・判断・表現の観点との関わりを見取る。

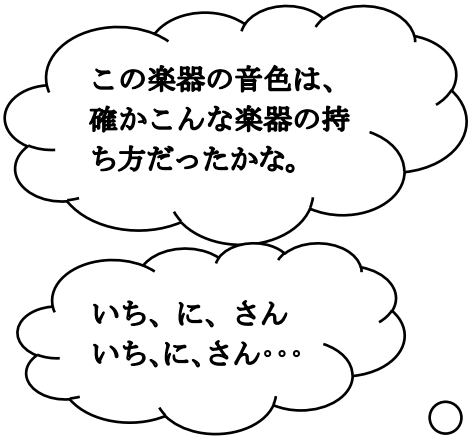
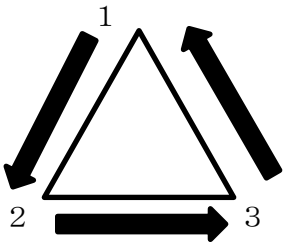
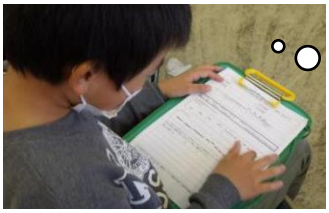
８　本時の学習指導について（８／８時）

⑴　目標

・楽器の音色や旋律の特徴と曲想との関わりについて気付いたことを生かして、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。<思考力・判断力・表現力>

・木管楽器の音色や響きに興味・関心をもち、曲や演奏のよさなどを味わって聴く学習に進んで取り組む。<学びに向かう力、人間性等>

⑵　展開

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点　☆評価規準と評価方法
○フルートとクラリネットの音の特徴や旋律の美しさやよさを味わいながら聴く。 ・「ア」「イ」の１フレーズを、楽器演奏のまねをしながら聴く。 **T：（発問①）「ア」「イ」のどちらかはフルート、どちらかはクラリネットの曲です。楽器を演奏するまねをして、どちらか考えながら聴きましょう。** ア：メヌエット イ：クラリネット　ポルカ  	 ○教科書は開かせない。 ○演奏するまねをしながら聴かせる。 ○どちらの曲がどちらの楽器（フルートかクラリネット）なのかを考えながらまねをさせる。 ○「ア」がフルート、「イ」がクラリネットであることを確認し、板書する。
・「ア」「イ」の一部分を、曲に合った指揮をしながら聴く。 **T：（発問②）３拍子の曲はどちらでしょう。指揮をして、どちらか考えながら聴きましょう。**	○曲に合った指揮の仕方になるよう、手や腕の動きなどに気を付けて指揮をさせる。拍子を通して曲の感じをつかませる。 ○本格的な指揮でなくとも、下記のような三角形の指揮でもよい。  ○「ア」が３拍子、「イ」が２拍子であることを確認し、板書する。 ○「ア」と「イ」では、手や腕の動きが違う指揮になることを確認し、そのような違いがある理由を発表させ、板書する。 

・「ア」「イ」の一部分を、主な旋律の音の高さに合わせて指や手を動かしながら聴く。 **T:（発問③）「ア」「イ」の主な旋律を、図形楽譜をなぞりながら聴きましょう。どんな違いがありますか。どんな違いが** **難しいから、最初は友達や先生のまねをしてやって** **イの曲は、「ルルル・・・」と歌うのが大変だなぁ。**	○ワークシートにある図形楽譜をなぞりながら聴かせたり、身体の前に手を持ってきて、音の高さに合わせて手を上げ下げするなどして聴かせたりすることで、旋律（音の高さやつながり）の特徴をつかませる。 ○「ア」は音の高さが高く、長い音が多いこと、「イ」は音の高さが低く、短い音が多いことを確認し、板書する。
・「ア」「イ」の一部分を聴きながら、主な旋律を口ずさむ。 **T:（発問④）「ア」「イ」を聴きながら、主な旋律を「ル」で口ずさみましょう。**	○主な旋律を口ずさむことを通して曲の感じをつかませる。 ○「ア」と「イ」では唇や舌の動かし方などに違いがあることを確認し、そのよう違いがある理由を発表させ、板書する。 ○発問①～④の活動は、適宜グループで行うことも考えられる。 ○発問①～④の活動は、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるように板書する。 ○発問①～④の活動は、児童が十分に聴き取ったり感じ取ったりすることができるよう、適宜繰り返したり、確かめたりする。
・曲名と作曲者を知る。 ・「メヌエット」「クラリネットポルカ」を最後まで聴く。 ・どちらか１曲を選んで、よさとその理由を書く。 ・学習を振り返る。	○可能なら授業で学習したことに関連する動画を見せることも考えられる。 ○書き方の例を示す。 ○授業で学習したことを通した自分なりの考えが入るようにする。 ☆思③観察・発言・記述 ☆態③観察・記述

９　板書計画

課題曲のよさを味わってきこう。 アの曲：メヌエット 　　ビゼー作曲 イの曲：クラリネット　ポルカ 　　ポーランド民謡 まとめ曲のよさについて、 　　言葉で表すことができた。		きき取ったこと	感じ取ったこと
	ア	フルート ３拍子 音が高く長い音	やさしい なめらか
	イ	クラリネット ２拍子 音が低く短い音	軽やか にぎやか

《Point》*聴き取ったこと　　感じ取ったことの関わりを考えさせる*

・感じ取ったことの理由を、音楽を形づくっている要素の働きに求めたり、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているかについて考えたりさせることが大切

・聴き取ったこと感じ取ったことの関わりを意識させるため、矢印などで示すと効果的である。

10　ワークシート

フルートとクラリネットのひびきに親しみましょう（音色・せんりつ）	
曲名　　メヌエット	作曲者　　ビゼー
曲名　　クラリネット　ポルカ	ポーランド民謡

４年　　組　　番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１．フルートとクラリネットの音色の特徴を感じ取ろう。（□の中から合う言葉を選ぼう。）

フルート	クラリネット
すきとおった感じ　　優しい感じ	はっきりした感じ　フルートよりかたい

やわらかい　　かたい　　すきとおった　　にごった　　やさしい　　どっしり 軽い　　重い　　なめらか　　はっきりした　　※他にも自分であったら考えてみよう

２．図形楽譜をなぞってみよう。

（略　教科書の図形楽譜をここに貼り付ける。）

知識の評価例
「十分満足できる」状況（A）：自分なりの言葉で、音色そのものの違いがわかるように表している。「フルートはやわらかい音、クラリネットはやや硬い感じの音」
「おおむね満足できる」状況（B）：自分なりの言葉で、違いがわかるように表している。「フルートは軽い音、クラリネットはやわらかい音」「フルートはやさしい音、クラリネットはすきとおった音」
「努力を要する」状況（C）になりそうな児童への支援例：「フルートの音とクラリネットの音が違うのはわかりますか。合う言葉を選んでみましょう。」「次にこのワークシートを見たときに、フルートやクラリネットの音を思い出せる言葉を書きましょう。」

３．どちらか１曲をえらんで、その曲のいいところを書きましょう。また、その理由を、学習したことをもとに、音楽の言葉（楽器の音色・せんりつ）を使って書きましょう。

選んだ曲に〇　　ア　・　イ
この曲のいいところは、フルートのすきとおった感じに合った曲であることです。
理由は、フルートの音色のすきとおった感じと高く長い音がたくさんあって、やさしい感じが
したからです。せんりつは高く長い音が多いので、なめらかな感じがしたからです。

☆この曲のいいところは〇〇です。理由は、□□（楽器の名前）の音色が▲▲で、△△な感じがしたからです。せんりつは▼▼で、▽▽な感じがしたからです。

〈Point〉 *鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、*
曲や演奏のよさを見出し、曲全体を味わって聴くこと。

〇その過程で新たな知識を習得すること
〇これまで習得した知識を活用すること
◇両方が必要

※ワークシートの記述において、板書との整合性や、聴き取ったことと感じ取ったことの関連性に触れさせることが重要

４　学習のふりかえり

この題材（打楽器の音楽・茶色の小びん・木管楽器）では音色の学習をしました。わかったことについて書きましょう。

「十分満足できる」状況（A）：・・・音色と学習したことを具体的に関連付けている。
例）音色と曲の感じは関わっていることがわかった。これから木琴を演奏するときには、色々な種類のマレットを試してから、曲に合った音色を選んでみたい。
学校や家で曲を聴く時、楽器の音色に注意して聴いてみようと思う。同じ曲を違う楽器で演奏している曲を調べて聴いてみたい。

「おおむね満足できる」状況（B）・・・学習したことと関連付けている。
例）打楽器や木管楽器など、楽器によって音色の違いがあることがわかった。そして、その音色によって、優しい音楽に聴こえたり、軽やかな音楽に聴こえたりすることがわかって楽しかった。

思考・判断・表現の評価例
「十分満足できる」状況（A）：音色や旋律について書いていて、自分なりのいいところが書けている。ワークシート記入例参照。
「おおむね満足できる」状況（B）：音色や旋律について書いてある。もしくは自分なりのいいところが書けている。ワークシート記入例の内容が部分的に見られる。
「努力を要する」状況（C）になりそうな児童への支援例：「☆の例文をまねしてみましょう。」「アとイ、●●さんのおすすめの曲はどちらですか。」「この曲のいいところを一言で表すとどんな言葉になりますか。」「指揮をしたとき、アの曲に合った指揮をしていてすてきでしたよ。そのことをふくめて書いてみましょう。」

11　指導と評価の一体化について

〈鑑賞　教師用チェックリスト〉

		取組状況			
		知	思	粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子
1	児童名	○	○		
2	児童名	~~音色の違いがわかならない~~			
3	児童名		言葉で表せない		

〈鑑賞用　児童の観察・発言の評価〉本時の発問①～④の評価について
○座席表を準備し、記号で記入する方法もある。

【〈鑑賞　教師用チェックリスト〉の記入の仕方と留意点】

知

十分満足できる……「○」を記入する。（例　フルートとクラリネットの音色の違いに気付き、発言や記述・態度に多く表れている。）
おおむね満足できる……空欄のまま（例　フルートとクラリネットの音色の違いに気付き、発言や記述・態度に表れている。）
努力を要する……枠の中に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

思

十分満足できる……「○」を記入する。（例　曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く様子が発言や態度に多く表れている。）
おおむね満足できる……空欄のまま（例　曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く様子が発言や態度に表れている。）
努力を要する……枠の中に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

粘り強く取り組んでいる様子 十分満足できる……「○」を記入する。

おおむね満足できる……空欄のまま（例　学習内容に高い関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働に学習に粘り強く取り組んでいる。）
おおむね満足できる……空欄のまま（例　学習内容に関心をもち、主体的・協働的に学習に粘り強く取り組んでいる。）
努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

自己調整しようとしている様子

十分満足できる……「○」を記入する。（例　身体表現活動において、曲の流れを予測しながら聴いたり、他者に助言したりするなどして、学習を調整しようとしている。
おおむね満足できる……空欄のまま（例　他者からの助言を参考にしたり、それぞれの表現のよさを認め合ったりしながら自らの学習を調整しようとしている。）
努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。
観察だけでは不十分……「△」を記入する。
※〈鑑賞　教師用チェックリスト〉に記した、「努力を要する」具体的な取り組み状況について、改善が見られた場合は、取り消し線で消し、「おおむね満足できる」状況と判断する。

12　系統性

鑑賞領域では、様々な系統性が見られる。今回の事例のように西洋の音楽においては次のようなつながりが見られる。

３年生	４年生	５年生	６年生	中学校
金管楽器	木管楽器	弦楽器 オーケストラ	オーケストラ	オーケストラ

今回の事例は、３年生の金管楽器、５年生の弦楽器の学習においても、楽器を置き換えて同様に活用することができる。

日本や世界の音楽においても、次のようなつながりが見られる。

１・２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	中学校
わらべうた など	お囃子	和楽器 （箏など） 民謡	歌曲 和楽器 （尺八など）	歌曲 雅楽 世界の音楽	雅楽、能 歌舞伎 文楽 世界の音楽

児童が様々な音楽のよさを感じ取ることができるようになるには、各領域間、各学年間で系統的、発展的な指導計画を作成することが必要である。

※上記の表は、小梨貴弘著「こなっしーの音楽授業をステキにする 100 のアイデア（音楽科授業サポート BOOKS）」と、教育芸術社の教科書を参考にまとめた。

13　鑑賞の授業において

音環境に十分配慮する。

・質の高いスピーカーで聴かせる（学校の実態による）。低学年も鑑賞のときは、できる限り音楽室で行うなどするとよい。
・予め音量を確認しておく。児童が教室にいる場合を想定し、ベストより少し大きい音量で考えておくとよい。実際の授業では、再生したのち、後ろの児童の席の方まで行き、十分に聴き取れる音量であるか確認する。
・聴き始め、聴き終わりに配慮する。（一部分を聴かせるときに、フェードイン、フェードアウトするなど。）
・どの音源を聴かせるかが大切である。聴き取らせたいこと、感じ取らせたいことがわかりやすい音源を選択すること。教科書の付属 CD だけでなく、様々な音源を聴き比べて授業者が選択するとよい。
・聴かせたい場所から再生できるように編集しておくとよい。
・配慮の必要な児童にとって、一斉にスピーカーで聴くことを苦痛に感じる児童もいる。ヘッドフォンやイヤフォンを使ったタブレット端末による鑑賞など、児童の実態に応じて適宜選択するとよい。

授業の組み立て方

①ねらいを決める。
②形態を考える。（個人、２人、グループ、全員など）
③活動内容（聴き取る、感じ取る）
④活動の方法（聴く、歌う、演奏する、リズムを打つ、つくる、動く、考える、見つける、比べる、書くなど）
〇その他の留意点
・鑑賞は音楽を聴く活動（身体活動も含む）が主な活動となるようにする。誰もが分かるような発問ができるようにする。教師の解説や児童の発言ばかりが続かないようにする。
・どの部分をどのタイミングで聴かせるのか、予め考えておく。
・聴き取ったことと感じ取ったことを整理し、「●●のように感じるのは旋律が□□になっているから」など、ねらいを焦点化できるようにする。

※授業の組み立て方については、中島寿著「中島先生の鑑賞授業の教材研究メモ」を参考にした。